

7. 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

(1) 河川の利用形態

関川における河川利用者は、平成15年度河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)結果によると年間推計利用者は約24万人となっており、前回調査(平成12年度)より利用者の増加が見られる。

季節ごとの河川利用者を見ると、春から秋にかけては平均的に利用されているが、冬には降雪のため河川利用者が少ない。利用形態では、散策等が最も多く、全体の約8割を占める。

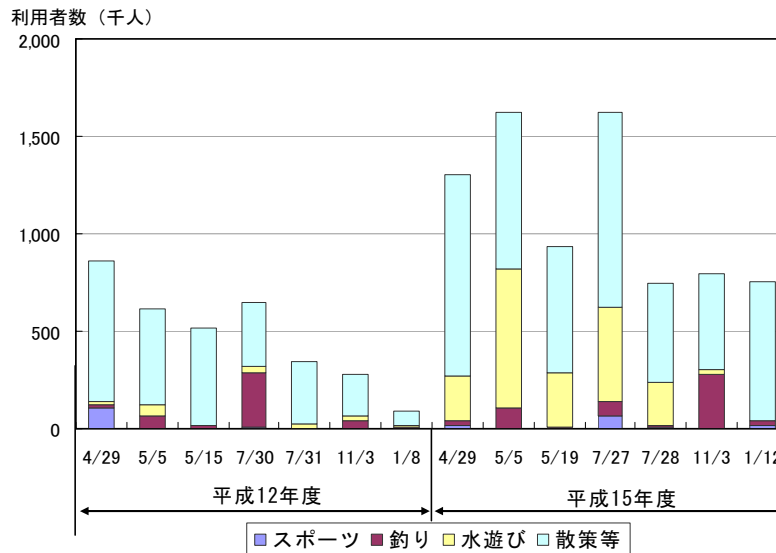


図 7-1 各調査日の利用状況

表 7-1 年間利用者の推計結果

区分	項目	年間推定値 (千人)		利用状況の割合	
		平成12年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	1	3		
	釣り	8	8		
	水遊び	4	48		
	散策等	71	177		
	合計	84	236		
利用場所別	水面	6	40		
	水際	6	16		
	高水敷	17	39		
	堤防	55	141		
	合計	84	236		

出典：H12, 15 河川水辺の国勢調査河川空間利用実態調査

(2) 区間別の主な利用状況

①上流部

上流部は上信越高原国立公園内に位置し、苗名滝、乙見湖、野尻湖等、各種の景勝地をはじめとした、四季折々の美しい水辺景観を背景とした観光地が多く存在する。また清冽な流れは釣りや水遊びの場としても親しまれ、年間を通じて多くの観光客が訪れている。

②中流部

関川本川と支川矢代川の合流地点は、親水、自然学習、交流・連携、情報発信等の多機能な地域の交流拠点として整備されている。特に、支川矢代川中流部には、比較的広い高水敷を利用した矢代川水辺公園が整備されており、スポーツや水遊びの場として多くの市民に利用されている。

③下流部

関川下流部は人口と都市機能が集中していることから、地域住民の身近な憩いの場、にぎわいの場として利用され、普段はウォーキングや総合学習の場として、イベントでは市民レベルとして全国最大規模のレガッタ大会、伝統行事の神輿下り、花火大会などが行われている。

保倉川下流部左岸側には、近年の海洋レクリエーションの拡大により増加したプレジャーボートの不法係留船の解消と河川の利用推進を図るため、マリーナ上越を平成14年に整備し、現在適正な水面利用がなされている。なお船舶は平成17年度には不法係留船対策が完了したこともあり、マリーナ上越を始め周辺の施設に收容されている。



矢代川水辺公園（妙高市）



上越レガッタ大会（上越市）



上越高田花火大会（上越市）



マリーナ上越（上越市）

7-2 河川敷の利用状況

関川の河川敷は、引堤により新たに創出されたものが大半であり、テニスコート、芝生広場、ゲートボール場等として約4haが利用されており、その利用要請は近年高まっている。

関川の河川敷の利用状況は、表7-2のとおり、公園・運動場以外の利用はない。

表7-2 関川の河川敷利用状況（指定区間外）

（単位：千m²）

官 有 地							民 有 地			計	既利用 地	未利用 地	計	合 計
既 利 用 地							未利用地							
田	畑	公園 緑地	運動場	採草放 牧地	その他	小 計	利用可能地		利用不 可能地					
							そのま ま利用 可能地	手を加 えれば 利用可 能地						
—	—	60.7	11.1	—	0.6	72.4	20	30	221	368.4	—	381	381	749.4

平成16年4月現在（河川管理統計資料による）



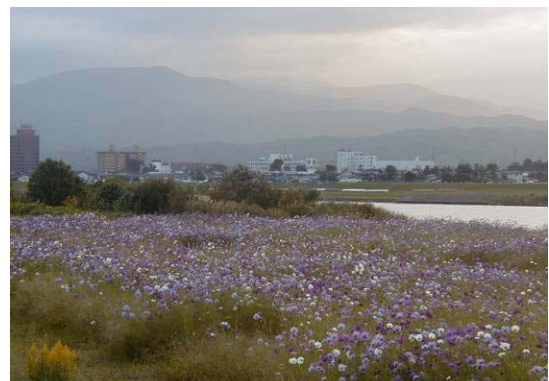
ゲートボール大会



稲田祇園祭



ポニーカーニバル in 関川



リバーサイド夢物語コスモス畑